多くの市民が職場を得た
メチアル首相が感謝の辞

ヨーロッパで三番目の生産拠点 YDSが開所式

5月21日、湿度が低いためか、日本の秋を思わせる五月晴れのなかで、メチアル首相を主賓に迎え、矢崎デブナール・スロバキア有限会社（＝YDS　石川雅之社長）の開所式が、式典と懇親会の二部形式で行われた。

特に懇親会は、ヨーロッパ文化を代表するハプスブル家マリア・テレジアで有名なシェーンブルグ宮殿やテレジアの娘マリーアントワネットのフランス・ベルサイユ宮殿のごとき豪華・華麗ではないが、形式は同じくし、当時の地方諸侯・貴族の居城はかくあったかと思わせる、質素な作りのボイニッツェ城で行われた。

開所式の二、三日前までは、寒ささえ感じる雨天が続いたが、準備を始めた開所式の前日から、カラッと晴れ上がったとのことで、YDSの将来を暗示しているようであった。

石川（YDS）社長

ロビンフットに似た物語をテーマにした、義賊の民族舞踊

【開所式式典】

金持ちから金を巻き上げ貧しい人に分け与えるという、ロビンフットに似た物語をテーマにした、民族舞踊などを楽しみながら、メチアル首相の来場を待ち、式典が開会された。

最初に、矢崎グループを代表して挨拶に立った矢崎副社長は、スロバキア政府の多大な協力のおかげで、今日、ヨーロッパで三番目の生産拠点、YDSの開所式を迎えることができたとお礼を述べると共に、一九六八年の「プラハの春」と世界的に有名なクリスタルのカットグラス（ボヘミアグラス）を例にあげ、『力による抑圧に立ち向かう勇気と知性を備え、精密な仕事を集中力と忍耐力でやり遂げる、スロバキアの皆さまであれば、きっと、世界で競争できるワイヤーハーネスを作っていただけるものと、確信している』『そのためには、ダイムラーとクライスラーの合併に象徴される、自動車業界再編の激動を勝ち抜かなければならず、それを勝ち抜く鍵は世界最高の品質・コスト・納期を達成する以外、道はない』と挨拶した。

矢崎副社長につづき、メチアル首相は、『一九九三年にチェコから分離し、政治的に独立したが、経済的独立は、困難な状況にあった』『そのような折り、矢崎の話があり、是が非でも誘致したいと考えていた』と、当時を振り返った。

そして、スロバキアに日本企業として最初に矢崎が進出したおかげで、他の日本企業も進出するようになり、『多くの市民が職場を得、社会的に新しい段階に入ることができた』と、感謝の辞を述べた。

また、スロバキアは社会的インフラが備わっているので、『ここに限らずダイナミックに活動し、発展することを期待し、そのためには、政府として出来得る限りの努力をする』と、約束した。

矢崎デブナール・スロバキア有限会社を代表して石川社長は、『美しき青きドナウ』と、ドナウ越しに見えるプラチスラバ城を引用し、初めて、スロバキアに来たときの感慨を述べながら、『矢崎デブナール・スロバキアの品質が、世界最高だとの評価を受けることを目指し、スロバキアの人たちと共に努力することを誓う』と挨拶した。

その後、石榑（日本大使館）参事官とデブナール氏がそれぞれ挨拶し、テープカットと工場見学が行われた。

（写真上）テープカットをして握手を交わす矢崎副社長とメチアル首相
（写真下）工場案内をする矢崎副社長

【記者会見】

正面入り口に菩提樹（スロバキア国木）を植樹後、約四〇〇名のスロバキア人記者および日本経済新聞記者を招き、記者会見を行った。

質問は、メチアル首相と矢崎副社長に集中した。メチアル首相には、スロバキアにおける企業誘致の現状と見通し、矢崎副社長にはスロバキア国産品の使用の可能性、欧州フォード以外のメーカーへの納入予定、EU通貨統合の影響、アジア通貨下落の影響、などの質問がとんだ。

【懇親会】

式典後、場所をボイニッツェ城に移して、懇親会が行われた。

メイン会場は、ハンガリー王国フニャディ王の名を冠したフニャディホール。

ホール正面に、壁一面のタペストリー（ヨーゼフ2世とその兄弟）。タペストリーに向かって右手中央に、マリア・テレジアや皇帝カレル4世ほか多数の肖像画。左手には、レベッカとエリザベットやうさぎ狩りなどの絵画が、所狭しと飾られている。

バイオリン、コントラバス、ツィンバー（スロバキアの楽器）のトリオが、ワルツやポルカを演奏するなか、ウエルカムドリンクを手にして集まったお客さまのなかに、ワルツに合わせ、思わず　体を動かす中年男性や、ポルカのリズムに、自然とステップを踏む通訳の女子大生。

いかにも、ヨーロッパである。

中休みの間奏曲四季（ビバルディ）の演奏をはさみ、ウインナーワルツにはじまって、スロバキアの歌「わが生まれた地方」で終えたペテル・シュベルトとエリシュカ・ホルナーによる一連の歌曲

石造りのホールが、メゾソプラノとテノールの美声を心地よく反響させ、聴衆を歌に引き込んでいく。

歌が終わると同時に「イエッ」と、称賛の声をあげる若き女性に、現代を感じるが、地味ななかにもヨーロッパ文化の香りをかもし出す。

メイン会場を移すごとにトリオも移動し、常に、音楽がある懇親会の演出。

音楽のさかんなドイツ、オーストリア、ハンガリー、ポーランドに囲まれているが、オーストリア、ハンガリーの影響が大きく、また、肌が合うようである。

矢崎グループ代表で式典に臨む矢崎副社長夫妻